

# 前髪ウィッグ 心前向きに



## がん患者らの自毛使用 長野に店舗兼工房

長野市南千歳でがん患者ら向けにウィッグ（かつら）専門の美容室「スマイルハート」を開く鈴木浩子さん（54）坂城町坂城Ⅱが今月、患者自身の髪を使った前髪のウィッグを作る店舗兼工房「スマイルクローバー」を近くに開く。治療に伴う脱毛など外見の変化を苦痛に感じる患者を支え、闘病中の人たちが働き、悩みを共有できる場にもしたいと考えている。

鈴木さんは昨年、「マイドネ」と名付けた取り組みを始めた。希望者に髪を切って保存しておいてもらい、治療などで髪を失った時にウィッグを作る仕組み。自分の髪を使うと他人や人工の髪より肌への刺激が少ないという声が多く、「和毛」という登録商標で製品化した。

さらに、大量の髪が必要な頭全体を覆うウィッグだけでなく、比較的少量でも作れる前髪だけのウィッグに着目。帽子をかぶった時に着ければ自然に見えることができ、ニーズがあると思込んだ。

当初は中国の工場に製造を委託するつもりだったが新型コロナウイルスで髪が検疫を通らなくなった。何とか自分たちで作ろうと、スマイルハートに通っていた小林英美さん（52）長野市上松、吉沢せい子さん（58）同市栗田Ⅱらと試行錯誤。ミシンで作る方法を考案し、これまでに4人に提供した。

21日に本格オープンする店舗兼工房は、がん治療中の人たちが時間給で働き、社会復帰する

前髪のウィッグと自身の髪を保存する箱を手にする（右から）吉沢さん、鈴木さん、小林さん

## 美容室経営の鈴木さん 今月オープン 治療と生活 悩み共有の場にも

準備や悩みを共有する場にもする考え。がん治療中の小林さんは、周囲の理解が得られず動いていた会社を退職せざるを得なかったといい、「社会人として仕事していたのに、放り出された感じがした」。ここで働き、人とのつながりが維持できることの大切さを実感していると話す。がん経験者の吉沢さんも、髪が少ないことを「気の毒」と思われるのが嫌だという患者も多いとし、ウィッグを着けてストレスが減ることで「治療向き合っ気持ちも違ってくる」と話す。

鈴木さんは、ウィッグ用に保存する髪のカットや、前髪ウィッグを着用した際のおしゃれなカットなどで協力してくれる美容室を増やし、患者を支える輪を広げたいと願う。「がんになっても、周囲と同じ生活ができる社会になってほしい」と話している。

前髪のウィッグは税込みで2千円。希望者にそれぞれ美容室でカットした髪を送ってもらい、工房で仕上げる。スマイルクローバーのホームページから申し込む。治療による副作用が現れやすい爪や指先のケアもある。問い合わせはホームページ（<https://nicose-naga.no.com>）から。